

羽澤ガーデンからの発信

# 坂 路 の 雲

～ 漱石「満韓ところどころ」の百年 ～

## 第1部 シンポジウム ～ 辻井喬氏を囲んで ～ 近現代史の盲点を探る

～日清日露・15年戦争からGHQまで

黒井千次氏(作家)、

園部逸夫氏(元最高裁判事)、

半藤一利氏(歴史家) 他



無二の親友・中村是公と夏目漱石

## 第2部 トークオムニバス 私の是公と漱石

お話 有馬富美子さん(是公の孫)

半藤末利子さん(漱石の孫)

## 第3部 講演 羽澤ガーデンの「美」の文脈

講師 前野まさる氏 (東京芸術大学名誉教授・日本イコモス国内委員会委員長)



2009年12月15日(火)18:30  
国際文化会館・岩崎小彌太記念ホール

港区六本木5-11-16 03-3470-4611  
大江戸線 麻布十番駅 7番出口より徒歩4分  
日比谷線 六本木駅 3番出口より徒歩10分

・ 参加費 1,000円をお願いします

連絡先 「羽澤ガーデンの文化財と景観を守る会」事務局  
03-3237-0888 FAX:03-3237-0890

# 羽澤ガーデンには、日本の近現代の記憶が刻まれています。 関東大震災、戦災、バブル期の狂騒を潜り抜けた「羽澤ガーデン」を、 今、国の重要文化財に！



## 羽澤ガーデンは、渋谷区広尾の南斜面にあります

広さは、およそ3000坪、そのほぼ半分はこんもりとした樹林と庭園です。この高木、灌木を配した緑滴る杜に包み込まれて、豪壮な伝統的和風建築でありながら洋風応接間をしつらえた母屋があります。それは、大正モダニズムの薫り漂う歴史的な建造物です。

この屋敷は、大正4年、夏目漱石の親友として有名な中村是公の私邸として建てられました。是公は、旧満鉄総裁、東京市長等を歴任し、

昨今司馬遼太郎氏の「坂の上の雲」で注目されている明治維新以降の日本の近代化を推し進めた個性的な官僚、実業家、政治家のひとりでもあります。

## 羽澤ガーデンの地には、歴史の記憶が詰まっています

もともと、この地は、血盟団事件で暗殺された三井財閥の総帥團琢磨男爵の持ち物でしたが、明治42年、自前の校地を探していた青山女学院（メソジスト監督教会）が購入しました。当時の校友会会報には「此地は赤十字病院及び感化院の西南にありて廣尾に近く東方一帯の水田ありて之を隔てて赤十字社の松林を見、西方には氷川神社の老樹林あり静閑にして高燥、心身を養う好地たり」と喜びが記されています。しかし、種々の事情から同校はこの地での新校舎建築を断念し、大正2年、是公に売却したのです。

是公が昭和2年に急死したのち、屋敷は、台湾の「金山王」後宮信太郎（陸軍大将後宮淳の長兄）の手に渡り、終戦後、村上家がこれを購入しました。昭和22年から24年までの間、GHQ、マッカーサーの指示で要人の妻女に茶道や日本舞踊等を教えるカルチャーセンターとなり、「社団法人文化協会 羽澤ガーデン」の看板を掲げていました。「羽澤ガーデン」の名は、このときから使われるようになったと言われています。その後平成17年まで料亭、レストランとして営業し、将棋や囲碁の名人戦の舞台ともなりました。総理大臣、芸術家、そして多くの人々がここを訪れています。

羽澤ガーデンは、最早東京にはほとんど残っていない明治・大正時代の文化を現代に伝える重要文化財であり、かけがえのない都市の緑の景観なのです。

## 緑も文化財も失われたら、二度ともどってきません

ところが現在、この地で、建物や庭の破壊を当然の前提とする大規模なマンション建築計画が進行中です。我々は、このような文化財の破壊を阻止すべく、近隣住民の裁判を応援しつつ、10月21日には、川端文部科学大臣に重要文化財指定の要請を行う等（右写真）様々な活動を行っています。

本フォーラムでは、漱石が満鉄総裁の是公のもとを訪れてから満百年になることを記念し、近現代史の盲点を探る視点から羽澤ガーデンの文化財としての重要性を一人でも多くの方にお伝えするとともに我々の活動にお力添えをいただけるようお願いしております。



「羽澤ガーデンの文化財と景観を守る会」事務局 [mamorukai-hanzawa@train.ocn.ne.jp](mailto:mamorukai-hanzawa@train.ocn.ne.jp)

千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス302 齊藤驍法律事務所内 03-3237-0888 FAX : 03-3237-0890